

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グリーンホーム ひばり	評価実施年月日	平成21年2月1日
評価実施構成員氏名	林 美悟樹 林 由紀子 堀 順子 高橋 喜子		
記録者氏名	高橋 喜子	記録年月日	平成21年2月1日

北海道

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスの意義について全職員で確認しており、地域の一員として出来ることを話し合い、地域の中で暮らす事を支えていけるサービスを理念の中に組み入れている	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	見やすいところに理念を掲げ、職員は「理念カード」を常に携帯しており、折にふれ見直すように話している。会議には職員全体で理念について再確認をしている。また職員採用時には必ず理念を伝え理解してもらうようにしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	利用者が地域の一員として、地域の人々と共に支えあいながら暮らしていくことの大切さを理念の中に組み入れた事を家族にお便りでお知らせしている	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や買い物、ゴミステーションの掃除などの際には近隣の方々と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。自分で育てた花を届けて下さったご近所の方には、お礼の手縫いの雑巾を差し上げたりして、ホームにも立ち寄って頂けるよう努めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域や、学校の行事(ゴミ拾い、夏祭り、盆踊り、運動会、もちつき大会、冬つどい など)には利用者とともに、積極的に参加しており、地区の子供達との交流も少しずつ出来てきている。町内会にも加入しており、総会などにも参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等 の暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる</p> <p>利用者の状態等考慮しながら、町内会 のゴミ拾いに参加したり、地域で行われ ているボランティア活動(学校等への雑 巾の寄付)にも参加し、裁縫の得意な 方に雑巾縫いをしてもらったりして いる。</p>	○	<p>今後は、地域の方々を対象とした 認知症についての勉強会を行なっ たりして、啓発に努めていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価 及び外部評価を実施する意義を理 解し、評価を活かして具体的な改 善に取り組んでいる</p> <p>自己評価の内容を全職員に目を通し てもらい、取り組み内容を話し合 いながら行なっている。外部評価 の結果は、会議で報告し課題につ いての具体的な改善策を全職員 で考え、実践につなげていける よう努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサー ビスの実際、評価への取り組み状 況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービス向上 に活かしている</p> <p>事業所から毎回 活動やサービス 状況などについての経過報告をし 、参加メンバーからは質問、意 見、要望を受けそこから今後の 活動やサービス向上にむけての 取り組みに活かしていけるよう 努めている。自己評価の内容と外 部評価の結果については会議で 公表し、意見等頂いている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推 進会議以外にも行き来する機会 をつくり、市町村とともにサー ビスの質の向上に取り組んで いる</p> <p>質問、相談等で市町村担当者、 ケースワーカー等と日頃から 連絡を取りながら、共にサー ビスの質の向上に取り組んで いる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利 擁護事業や成年後見制度について 学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、必要 な人にはそれらを活用できる よう支援している</p> <p>地域福祉権利擁護事業や成年 後見制度について、まだ学ぶ 機会がなく、理解がうすい。</p>	○	<p>今後は、研修等に参加し、理 解を深めていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防 止関連法について学ぶ機会を 持ち、利用者の自宅や事業所 内で虐待が見逃されることが ないよう注意を払い、防止に 努めている</p> <p>職員にはつき1回の会議や日々 の申し送りの際など、折に触 れ高齢者虐待法に関する内容 について伝え、虐待についての 理解を深め、利用者の尊厳を 守ることの大切さを話し合う 機会を持っている。また順番 に外部研修にも参加してい る。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約内容や事業所のケアに関する考え方などについて説明し、利用者や家族が不安のないように配慮している。利用者の状態が変化し 契約を解除する際にも、本人 家族と充分話し合いをしながら その後の対応等相談している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言動や態度などで、希望や願いをくみとる努力をし、随時日々の申し送りや会議などで話し合いをし、全職員が共有できるように努めている。また継続して通院している病院からは 週1回の訪問看護でソーシャルワーカーが来訪し、利用者の相談にのって頂いている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の来訪時には、利用者の最近の様子を伝えるようにしている。また定期的にお便りを発行しご家族の了承を得たうえで、行事の際の写真もその中に盛り込んでお届けしている。心身の状況で変化がみられた際はすぐに報告している。小遣い内訳表を定期的に明示し、報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には、お便りや来訪時に何か気付いたことがあれば いつでも言ってもらえるように声かけしており、来訪の際は、利用者の様子を伝えながら、ご家族からも意見等出していただけるとような雰囲気づくりに努めている。また面会票のそばに「意見箱」を置き、利用していただくよう声かけしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に全体会議を設け、職員の意見、要望等聞くようにしている。また日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけ、場合によっては個別面談も行い、意見を聞く機会を持つようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状態やペースに合わせ、出来る限り柔軟な体制が取れるようローテーションを組んでいる。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者やご家族と馴染みの関係が継続していけるように最善の努力はしている。やむを得ない離職の場合、他の職員への引き継ぎをしっかりともらい、新しい職員が入る場合も利用者にもきちんと紹介している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修には、順番に受講できるようにしている。また、研修報告は 全体会議で発表してもらい、他の職員にも伝え、ケアに活かしていけるように努めている。OJTチェック表にて定期的に自己評価をし、働きながらトレーニング出来る機会を持てるようにしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市や区ごとの管理者連絡会には積極的に参加し交流を図っている。連絡会の中で管理者やスタッフ向けの研修を設けて、同業者と交流しながらサービスの質の向上を目指している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常的に職員の疲労やストレスの要因について気を配るようにしている。休憩室は確保できていないが、少しの時間でも利用者と離れて、一休みできるよう居場所について配慮している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者として勤務しており、利用者のケアにあたり、職員の業務内容の把握も出来ている。また職員の資格取得に向けた支援も随時行なっている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービスの利用について相談があった場合には、必ずご本人に会って、心身の状態や困っていること、苦しんでいることなど、状況を把握し、思いを受け止め安心して頂けるような関係作りに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>これまでの経緯や、サービス利用状況など、落ち着いた環境の中で十分に話を伺うようにし、ご家族の求めているものを理解しながら ご家族の思いを受け止めるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	体調をくずされ、長期入院となりサービス利用が終了された方も、時々お見舞いに行ったりして、継続的な関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用時にご本人やご家族、関係者から伺うようにしている。また 利用後も折にふれ、ご本人が話してくださったことや、ご家族が面会に見えた時に少しずつ話を伺い、思いや意向の把握をするよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者などから利用時や利用後に伺うようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間のケアを通して、食事や睡眠、排泄、生活習慣などから利用者一人一人の生活リズムを知り、その人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いを聞き、介護計画に反映させるようにしている。職員全体で、意見交換したり、モニタリングやカンファレンスを行なっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎に見直ししている。また月1回の全体会議の際に個々のカンファレンスも行い、情報や気付いたことを集めながら、介護計画につなげていけるようにしている。また、ご本人、ご家族の意向については随時話し合いを持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や、職員の気づきなどは個々の介護記録に記載して、職員間が情報を共有し、その都度話し合いをしながら実践につなげて行くよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の希望や状況に応じて、通院や送迎、外出時の付き添いなどの支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で生活していけるように、民生委員、まちづくりセンター、消防の方々に相談したり、指導して頂いたりする機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望により、かかりつけ医のソーシャルワーカーと相談しながら週2回デイケアに通所している。また週1回ワーカーの来訪がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には 地域包括支援センターの職員が必ず参加して下さり、地域の情報や支援に関する情報交換が出来るようになり、ケアの向上につながられている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご本人やご家族と相談しながら支援している。受診は基本的には家族同行になっているが、不可能な時は職員が代行するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の申し送り時や全体会議などの際に、職員の意識向上を図ると共に、その都度利用者への一人一人の関わり方について 全職員がお互いに点検しあいながら、対応の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人の状態に合わせて、声かけの仕方について職員間で随時話し合いを持ちながら、自己決定できる方向へ導けるよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、体調を考慮しながら、その時々のご本人の気持ちを重視し、出来るだけ個性のある支援を行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	更衣の際の洋服選びは、基本的に本人の意向で決めているが、迷われている方には 職員と一緒に考えることもある。カット、パーマは、本人の希望に沿って対応しており、カットの出来る職員がボランティアで行なっている。起床時口腔ケア後お化粧の支援もしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューはなるべく利用者の希望を聞き入れながら決めるようにしている。調理、盛り付け、配膳、片付けなど利用者と共に行い、職員は必ず一人以上は利用者と一緒に食事し、楽しい雰囲気ですべてできるような心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ホームで提供する以外の飲み物、おやつについては職員が賞味期限を確認し、居室で楽しめるように支援している。タバコは職員と一緒に随時買い物に行き、職員が預っているが本人の希望に沿い、決まった場所で換気や臭いなども考慮しながら吸っていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄時間や、習慣などを把握し、支援している。尿意のない方には、さりげなく声かけをトイレ誘導したり、ペーパー使用が難しい方や少量の尿漏れがある方に対しては、下着にうすい尿パットを使用するなどして対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に4日以上の入浴日を設け、利用者一人一人のその日の体調や希望に合わせ、出来るだけゆったり入浴して頂けるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるようにしている。体調を考慮し、疲れているような時には休息の声かけも随時している。寝つけない時はお話をしたり、温かい飲み物を飲んで頂くなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力が発揮できるような場面作りをし、(食事の支度、掃除、縫い物、畑仕事など) やって下さったことには、必ず感謝の気持ちを伝えるようにしている。地域の行事への参加などの楽しみごとは利用者と相談しながら行なっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、ご自分でお小遣いをもち買い物される方もいる。使わないが、自分で持つことで安心されている方もおり、ご家族にも協力して頂きながら時々所持金の確認をさせていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物に出かけている。また、季節の行事や、外食など出来るだけ、戸外に出られるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別的な外出については、本人の思いや願いを叶えられるよう、ご家族とも相談し、協力を得ながら実現に向けた取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やお礼の手紙、遠くにいるご家族への手紙を出すための支援を行ない、希望に応じて日常的に電話や手紙をだせるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、いつでも気軽に訪れて頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送りや全体会議などで、ケアを振り返り身体拘束が行なわれていないか、全職員で確認するようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人一人のその日の状態を把握し、職員が見守りを徹底することで、日中 カギをかけないケアを実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者がフロアで過ごされている時はさりげなく見守りをし、状況を把握するようにしている。2階の居室で過ごす利用者には、時間で声をかけたり、訪室しおしゃべりをしたりしている。夜間は数時間毎に様子を確認すると共に すぐ対応できるように居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意しなくてはならないものを全職員が把握し、管理の仕方を決め統一している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態から予測される危険を全職員で考え、事故を未然に防ぐために、食事や服薬の見守り、階段昇降の見守り、タバコを吸う方への配慮など工夫している。事故が発生した場合は、速やかに報告書を作成し、今後の予防対策について検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回程度、講師に来て頂き、救急手当や蘇生術についての勉強会を実施している。また夜勤時の緊急時対応についてマニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力をあおぎ、避難訓練等を定期的に行なっている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用時に事業所の取り組みや方針を示し、安全は確保しながらも自由な暮らしをしていく上で起こり得るリスクについて説明しており、随時ご家族と話をする機会を持つようしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック時はもとより、常に様子の変化や異常がないか注意しており、変化に気付いたことがあれば、職員間で共有し管理者に報告している。状況により医療機関に連絡し、受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録といっしょに一人一人の薬の処方箋をファイルし、処方や変更があった際は必ず申し送りし、常に職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は必ず見守りをし、きちんと服用できているか確認している。また状態の変化が見られたときは医療機関と連携が図れるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、散歩や軽い体操、家事などで体を動かす機会を適度に設けるようにして、できるだけ下剤等に頼らないよう努めている。下剤を使用する場合は一人一人の状態に合わせた量など医療機関に相談しながら確認の上使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを必ず行い、一人一人の力に応じて、職員が見守りしたり必要に応じて仕上げ介助している。義歯のある方は就寝前に洗浄剤につけ殺菌、消毒している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日健康管理表に記録し、職員が情報を共有している。また、定期的に管理栄養士の方に専門的なアドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	主な感染症に関するの情報収集を行ない、季節で流行する感染症等に対する予防、対策について全職員で勉強している。また、利用者やご家族に同意を頂き、インフルエンザの予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは毎回漂白し、清潔を心がけている。冷蔵庫も点検、掃除をこまめにし、食事当番の職員は必ず、食材の鮮度や状態を確認し、無駄が出ないような調理方法を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節ごとにプランターや植木鉢に花を植え、玄関先や駐車場の脇などにおいて 明るい雰囲気になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間ではテレビの音の高さに配慮したり、まぶしさを遮ることが出来るようカーテンを2重にしている。また入浴時はリラククスできるような音楽を流したりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは、ソファとテーブルでコーナーを作り、食卓テーブルは、少人数ずつ座れるよう工夫して配置している。また、2階廊下にイスとテーブルを置き、一人で過ごしたり仲のよい利用者同志でもくつろげるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の利用者が、それぞれの好みの物や馴染みの物を持ち込まれており、カーテンやカーペットなどにも配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の際に窓を開け、空気の入替えを行なっている。温度調整は、温湿度計をみながらまめに行なっている。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりの位置や浴室、トイレ、階段などの生活環境について、まめに見直し安全面を考慮しながら、自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の状態を見極め、状況に合わせてその都度職員間で話し合い、不安や混乱が少なくなるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	移動式の物干しを用意し、天気の良い日は利用者と一緒に外に洗濯物を干している。また建物の脇や正面のスペースで野菜作りや花植えなど利用者と一緒にの行い、収穫を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	①

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	③
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない	③

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

私たち職員は 人生の大先輩である利用者さんに、常に「教えて頂く」という気持ちを忘れずに接しています。そして一つ屋根の下で家族のように暮らしている中で、一緒に泣いたり笑ったりしながらお互いに支えあい、一日一日を大切に生きていきたいと考えながら、日々努力しています。アットホームな雰囲気をこれからも維持していきながら、ご家族や地域の方々にももっと気軽に訪ねて来て頂けるように積極的な取り組みをしていきたいです。